入学式

4月8日と4月11日に町内小中学校の入学式が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で今年も規模が縮小される中、マスク姿で元気に登校する子どもたちが印象的な式となりました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

▲豊浦小学校14名

▲シュタイナー学園 いずみの学校10名

▲豊浦中学校23名

地域おこし協力隊の活動日記

文／佐藤　貴規　隊員

研修2年目を迎えました佐藤貴規です。1年間は親方の元で研修。2年目は研修施設であるいちご分校のハウスを使用し夫婦だけでいちご栽培。それと就農地探しとなっています。

今回は「夫婦で仕事をする」ということと「私の青春時代」のことをお話しいたします。

自衛官だった頃、妻と顔を合わせるのは朝の1時間と帰宅してからの3時間ほど。それが今となっては24時間。常に一緒になって畑で仕事をしています。人のこだわりポイントは違うもので「俺はそこテキトーでいいじゃん」「私は丁寧にしたい」と衝突することも多々。夫婦の共同作業はケーキカット以来なので、戸惑うこともありますが、「男性は女性の言うことを聞いていれば間違いない」という妻からの格言を胸に日々精進して参りたいと思います。

先月、ボクシングミドル級の世界戦が行われ村田諒太選手が敗れました。子どもが騒いでいる中、その声も耳に入らず食い入るように観戦していました。それは30年前の自分と重なるようでした。小学生だった私は、親が見ていた「ロッキー」という映画をまさに食い入るように観戦し、私の魂に突き刺さりました。少年は単純なもので、それから登校前に走ったり、兄貴に勝負を挑んだり、狭い部屋にサンドバッグを吊るしバシバシ叩いたりと「夢」に向かって走るイノシシのような生活を送っていました。上京するための資金作りとして、バイトをしながら夜間学校へ通い、夢とお金を握りしめ19才の春に東京へ行き、夏のような暑さに戸惑いながらジムの門をたたきました。しかし未熟だった私は仕事の疲れを理由に練習との両立が難しくなっていきました。陽炎の東京で挫折した私の青春でした。

▲妻の言うことを聞く夫